



阪神北広域こども急病センター

ニュースレター

2025年
冬号



気温が一段と下がる冬は、ストーブやファンヒーターなどの暖房器具を使う機会が増え、やけどの事故が多くなります。暖房器具に限らず、炊飯器や加湿器などでもやけどの事故は起こります。子どもはいろいろなものに興味をもち、危険かどうか分からずに触れてしまうことがあるため、十分な注意が必要です。今回はやけどの応急処置のお話です。

やけど (熱傷)

やけどは、熱いものに触れたり、熱湯を浴びてしまうことなどで起こります。非常に高温のものであれば短時間の接触でもやけどになりますが、40℃～55℃程度の低温のものでも長時間接触しているとやけど(低温熱傷)になります。子どもの皮膚はうすいため、大人と比べて重症化しやすい傾向があります。深いやけどや広範囲のやけどは、命に関わることがあるため注意が必要です。

→ どんなものが原因になるの？

液体:ヤカンや鍋のお湯、熱い飲みもの、カップ麺など

固体:ストーブ、アイロン、ホットプレート、トースターなど

気体:加湿器の蒸気、炊飯器の蒸気など

火:コンロの火、花火など



→ やけどの分類

- やけどの「深さ」は大きく分けるとⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度の3段階に分類されます。

I度(表皮までの損傷):皮膚に赤みが出る程度

II度(真皮までの損傷):水疱(水ぶくれ)ができる

III度(皮下組織までの損傷):皮膚が白くなったり黒くなったりする



- 「深さ」以外に、どのくらいの「範囲」でおこったかも重要なポイントとなります。子どもの手のひら1個分を1%として、10%以上のやけどは重症とされます。



→ やけどの応急処置

● 直ちに流水で冷やす

- やけどが深くなるのを防ぎ、痛みを和らげます。
- 水道水で20分ほどが目安です。(氷水はおすすめしません)
- 流水が刺激になる場合は、洗面器などに水をためて冷やしましょう。
- 市販の冷却シートは、やけどには使用できません。



● 服の上から冷やす

- 服を脱がせる時に水ぶくれを破いてしまうことがあるため、服を着たまま冷やしましょう。

● 水ぶくれはつぶさない

- 水ぶくれがつぶれると、そこから感染のリスクがあります。つぶさないようにしましょう。

● 低体温に注意する

- 広範囲を長時間冷やすと、子どもは低体温になることがあるので注意が必要です。

➡ 受診はどうする？

救急車を呼ぶ



- 10%以上(子どもの手のひら10個分以上)の広範囲のやけど
- 皮膚が白色や黒色になっている
- 顔面のやけど
(気道のやけどのおそれがある)
- 意識がない、
ぐったりしている

ただちに病院(皮膚科か外科)を受診する

- 水ぶくれができた
- 陰部、関節部分のやけど
(皮膚のひきつれを起こすおそれがある)
- 低温やけど(深いやけどになりやすい)



時間内に病院(皮膚科か外科)を受診する

- 子どもの手のひらより範囲が狭く赤くなっている程度

➡ やけど事故の予防のために

- 子どもの手の届く範囲を確認し、やけどの危険があるものは手の届かないところへ置く。
- ベビーゲートを使用する、またテーブルクロスは使用しない。
- コードを引っ張って事故につながることもあるため、コードも含めて子どもの手が届かないよう対策する。
- 家電製品を購入する際は、加湿器や炊飯器は蒸気の出ないもの、引っ張っても磁石で着脱できるコード、倒れても中身がこぼれにくいポットなどを選ぶことも予防策になります。



電話相談をご利用ください

◆阪神北広域こども急病センターでは、看護師による電話相談を行っています。

☎ 電話相談 ☎

072-770-9981



*発信者番号を通知の上、おかげください

☎ 相談受付時間 ☎

平 日	午後 8：00～翌朝 6：30
土 曜 日	午後 3：00～翌朝 6：30
日・祝日・年末年始 (12/29-1/3)	午前 9：00～翌朝 6：30

こどもの急病でお困りのときは、お気軽にご相談ください。

診療のご案内

診療科目	小児科(15歳以下、中学生まで) ※原則、内科の診療となります	
診療受付時間	平 日	午後 7：30～翌朝 6：30 診察開始は午後 8 時から
	土 曜 日	午後 2：30～翌朝 6：30 診察開始は午後 3 時から
	日・祝日・年末年始 (12/29-1/3)	午前 8：30～翌朝 6：30 診察開始は午前 9 時から

道路地図



阪神北広域こども急病センター

〒664-0015 伊丹市昆陽池2丁目10番地
<http://www.hanshink-kodomoqq.jp/>

TEL : 072-770-9988

FAX : 072-770-9905